

私達は生きていて楽しいことや嬉しいことばかりではないのをよく知っています。時にはどうしていいかわからなくなったり、悲しんだりすることもあるでしょう。聖書を見ますと、私達が感じているのと同じことを考えていた人が随分いたようです。どうして正しく生きている人が大きな困難にあったり、悩みが多いのだろう、正しくない人がなぜそのまま生きているのだろう、なぜ正しい人は損をしていると思うようなことが多いのだろう、正しい人ほど悩みが多いのはなぜなのだろう。こうしたことが聖書にたくさん出てきます。

本日の使徒書には、大変わかりやすくそのことが記されています。

主なる神は、私達人間同士が話をするようには会話をなさいません。主なる神の声を聞くというのは私達が友達と話をするのとは違い、私達がしたこと、選んだことに対して、それが主なる神にとってかなうことか、そうでないことか、正しいことをなしたときには祝福を送り、間違ったことをなしたときには審きと悔い改めを促す、主なる神の声を聞くとはこういうことであり、私達が祈りをもって主なる神と会話をするとは、こういうことを通しての業であるのです。しかし主なる神は私達が何かをしたり考えたりするまで、ただじっとしておられるのかというところではありません。主なる神の私達への働きかけはもっと積極的であるのです。本日の使徒書の中でこう語られていました。

あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことはありません。また、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れていません。

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。」

あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるのでしょうか。

およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。だから、萎えた手と弱くなったひざをまっすぐにしなさい。

また、足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろいやされるように、自分の足でまっすぐな道を歩きなさい。すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。

主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。主なる神は親が子供を教育するように、愛する人を鍛練・訓練なさるといいます。親は皆、子供が立派な人間になってほしいと思っています。そう思って教育したり、時には叱ったりするのです。子供をいじめたくてそんなことをする親はいません。主なる神は私達にとって魂の父なのです。心の頃に関して主なる神は、私達人間が主なる神のもとに行けるにふさわしい者となるよう、鍛え訓練なさるのです。私達人間は不完全なものです。そんな私達を訓練なさるといえるのは、主なる神が愛してくださるしるしであり、本当の意味で主なる神が優しいということなのです。ただ甘えさせてくれるというのは正しい優しさではありません。一人前の人間として主なる神の前に正しい人間として育てられる、これが主なる神が私達になさることであり、本当の優しさであるのです。

しかし私達は訓練を嬉しいこととは思いません。それは苦しいことであるからです。しかしこう記されていました。

およそ鍛練というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。

主なる神は私達が訓練・鍛練されるのは苦しいことであることをよく知っておられます。よく知っておられるうえで後の喜びを信じるように言われます。私達が正しく生きるためには、主なる神からの訓練を受けなければならない、それはそのとき嬉しいことではないけれども、後で大きな喜びを与えられることなのである、主なる神がその人に一番よい方法で訓練してくださることを私達は知り、委ねよう。本日の使徒書はその大切さを語っています。私達が困難にあうとき、試練にあうとき、しっかりと覚えていたい言葉でありましょう。